

1 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

① 丘を少しのぼると、斜面を覆っているうす紅色のものの正体ははっきりとわかった。ももの花だった。近づく<sup>②</sup>と花は三分咲きで、まだ<sup>③</sup>つぼみのほうが多かったが、昼近い時刻のきらめくような日の光を浴びて、あでやかに見えた。「このへんでいいよ」

弥太郎<sup>やたろう</sup>は、立ちどまると、父を振り向いて言った。父は弥太郎を江戸まで連れて行ってくれる隣村の男と話しながら、ひと足遅れて歩いてきたが、ちらと弥太郎を見上げると、首を振ってもう少し行こうと言った。

丘の道は、ある程度登ってしまつと、平らなところが続いたり、わずかにくだる箇所があったり、それほど険しい登り道ではなかった。だが、父は、右手に手ぬぐいをつかんで、首筋や、はだけた胸元のあたりを、しきりにぬぐい  歩いていた。疲れているように見えた。

(1) 線①「丘を少しのぼると、斜面を覆っているうす紅色のものの正体ははっきりとわかった」の一文は、いくつの文節から成り立っていますか。数字で答えなさい。

(2) 線①の文から、補助の関係から成り立っている連文節を一つ抜き出しなさい。

(3) 線①の文から、副詞を二つ、抜き出しなさい。

(4) 線②「で」と文法上の性質が同じものを、次から選びなさい。

ア どうかこのことは父に言わないでください。

イ この絵はがきで、先生に暑中見舞いを出そう。

ウ 彼はとてもさわやかで、人気があります。

エ 川の向こうが千葉県で、こちら側が東京都です。

(5) 線③「まだ」が修飾している言葉を、一文節で抜き出しなさい。

(6) 線④「あでやかに」の品詞名を書きなさい。

(7) 線⑤「と」と同じ意味・用法のものを、次から選びなさい。

ア 春になると、この池の水は解けはじめます。

イ 僕の父と母は二人とも秋田県の出身です。

ウ 全力を尽くしてがんばろうと僕たちは誓い合った。

エ 駅に着くとすぐに電車がホームに入ってきた。

(8) 線⑥「平らな」の品詞名を書きなさい。また、活用がある場合は、活用形も書きなさい。

(9)  にあてはまる、並立の関係を表す接続助詞を、文章中から三字で抜き出しなさい。

--